



徳島大学長 野地 澄晴 (のじすみはれ)

創立70周年を 迎えて

―大学改革の10年―

はじめに

徳島大学は、新制の国立大学として1949年に創立されました。今年、2019年は、創立70周年となります。2009年に創立60周年記念事業が、第11代青野敏博学長により盛大に挙行されましたが、その後10年が経過し、奇しくも令和の時代になりました。この10年、少子・高齢化が進み、2004年に国立大学が法人化され、現在に至っています。毎年運営費交付金が1%削減されその効果が顕在化し、人件費を削減せざるをえないほど財政的に厳しい状況になっています。この状況の下で、課題を解決するために大学改革が要求されてきました。その意味でこの10年は、第12代香川征学長(2010年から6年間)と後任の私(4年間)が、全教職員の

協力のもとに行ってきた大学改革の10年と言えるでしょう。ここでは、この10年の改革について振り返り、次の10年を考えるための参考になればと考えています。

1 活躍する徳島大学の卒業生・修了生

徳島大学創立後、70年間に5万8千人以上の卒業生、1万8千人以上の修士または博士を社会に送り出しています。特に卒業生の中村修二教授(カリフォルニア大学サンタバーバラ校)が2014年にノーベル物理学賞を受賞され、同じ年に田中啓二理事長(「公財」東京都医学総合研究所)が文化功労者として顕彰されています。また、東原敏昭氏は、日立製作所代表執行役執行役社長兼CEOに2016年に就任しておられます。他にも多くの卒業

生が様々な分野で活躍しています。

2 学部改革

当初は学芸学部、医学部、工学部の3学部で発足し、1951年に薬学部が工学部より独立し、1976年には歯学部が新設され、学芸学部は教育学部を経て1986年に総合科学部に改組されました。徳島県にも農学系の学部が必要であるとの要望から6次産業を担う人材育成のために、2016年に生物資源産学部が新設されました。工学部と総合科学部の理系の教員が中心となり、1学部1学科の理工学部になり、現在の6学部体制になりました。教養教育を充実するため教養教育院を2016年に新設し、学生の「入学前から就職に至る」一貫した支援を強化するた

3 大学院改革

2004年度に徳島大学は大学院大学になり、教員組織と教育組織を分離し、教育組織である大学院を教育部と名付け、大学院総合科学教育部、大学院医学教育部、大学院口腔科学教育部、大学院栄養生命科学教育部、大学院保健科学教育部、大学院先端技術科学教育部の7教育部で構成されました。一方、教員組織である研究部については、医歯薬学系の教員が大学院ヘルスバイオサイエンス研究部に所属しました。大学院ヘルスバイオサイエンス研究部は、2015年度から大学院医歯薬学研究部に改組されました。2006

年度には工学系の教員は大学院ソシオテクノサイエンス研究部に、2009年度には人間・自然環境研究系の教員は大学院ソシアーツアンドサイエンス研究部に所属しました。2017年度からは、両研究部を統合し、大学院社会産業理工学研究部を設置し、現在に至っています。2020年度に、常三島地区の大学院は統合され、大学院創成科学研究科(4専攻・地域創成専攻、臨床心理学専攻、理工学専攻、生物資源学専攻)を設置予定です。

4 研究支援と産官学連携の改革

異分野融合型研究の推進による新たなイノベーションの創出を目指して、分野を越えた複数の研究者からなる研究集団(研究クラスター)に対する研究費の重点支援等を実施する「研究クラスター支援制度」を2017年度から実施しました。教員に平等に配布している研究費とは別に、学長裁量経費(大学機能強化事業支援)1億円を確保し、千人の教員に10万円を平等に配布するのではなく、長期的には大学に資金が還元される可能性のある研究に投資し、研究費が投資額以上に増える仕組みを考えてい

ます。この仕組みは、大学病院の仕組みを取り入れ、収益をあげるための組織として2018年に新設した大学産業院と連動し、研究クラスターで得られた研究成果を社会実装する大学発スタートアップを創立しました。社会課題を解決して収益をあげ、その収益を大学に還元します。

地域課題の解決と豊かな地域社会の創造を推進し、多様な人々の生涯にわたる学びに対応するため、「人と地域共創センター」を設置し、5分野(リカレント・コンシュームエ、地域人材育成、インターシッ プ教育、ファブラボなど共創支援、地域共創研究)の取組を2019年から実施しています。

また、外部資金を多様な方法で獲得するための一つとして、クラウドファンディングを2017度から実施しています。一般社団法人・大学支援機構を設置し、クラウドファンディングサイトOTJUCE(おつくる)を立ち上げ、累計38,365千円の支援を得て、研究費や社会貢献などの支援を行なっています。

5 研究所の改革

現在、徳島大学の研究を担う2つの研究所があります。蔵本地区に

は2016年に「先端酵素学研究所」、常三島地区には2019年に「ポストLEDフォトニクス研究所(PLED)」が設置されています。「先端酵素学研究所」は、医学部に「附属酵素研究施設」が1961年に設置されたところからスタートします。1987年には「酵素科学研究センター」、1997年には「分子酵素学研究センター」、2007年には「疾患酵素学研究センター」と改組を重ね、2009年に「共同利用・共同研究酵素学研究拠点」に認定。2016年に、「疾患酵素学研究センター」と「疾患プロテオゲノム研究センター」を改組するとともに、「藤井節郎記念医学センター」と「糖尿病臨床・研究開発センター」を附属施設として統合することによって、「先端酵素学研究所」が設置されました。「疾患プロテオゲノム研究センター」は2012年に、1998年に設立された「ゲノム機能研究センター」を発展的に改組して設立されました。一方、「藤井節郎記念医学センター」は、医学部酵素生理学部門教授を務められた故藤井節郎博士の功績を記念して設立された一般財団法人・藤井節郎記念大阪基礎医学研究奨励会からの寄附により2013年に設立されました。「糖尿病臨床

研究開発センター」は、糖尿病が徳島県で克服すべき最重要課題のひとつであることから、2010年に徳島大学に設立されました。糖尿病の発症予防、重症化の阻止、健康寿命の延伸を目指した基礎研究から臨床医学研究を推進しています。

「ポストLEDフォトニクス研究所(PLED)」は、理工学部のフロンティア研究センターを発展的に改組して、2019年に設立されました。特に、2018年度の「地方大学・地域産業創生交付金」の交付対象事業に徳島県の提案である「次世代光創出・応用による産業振興・若者雇用創出計画」が採択され、徳島大学がこの事業を中心的に展開することになり、研究所の設置が不可欠となりました。PLEDは、1研究所1研究室のコンセプトの下に、安井武史研究所長により運営されています。

6 キャンパスや施設などの整備

2015年に、徳島大学病院の新外来診療棟が完成しました。1995年より大学が進めてきた足掛け20年の病院再開発計画は、東病棟、中央診療棟、西病棟に続き、これにより完了となりました。また、徳島県立中央病院との間

の塀が撤去され、バスの停留所が設置される等、徳島総合メディアカレッジが形成されています。ほかにも蔵本地区(病院及び医歯薬学部キャンパス)においては、薬局等が入居する複合施設及び、看護師宿舎や認定保育園のほか留学生居室等の多様な用途に供する複合施設の2棟を本学では初となる民間資金を活用したPPP方式により整備運営する事業契約を締結しています。

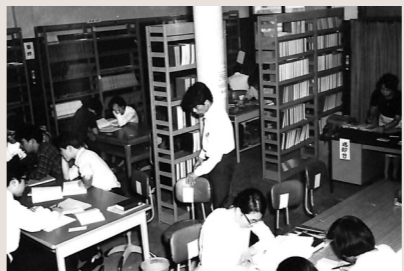
また同年、地域創生・国際交流会館が設置されました。徳島県における地域創生、国際交流に大いに貢献する拠点として、本学の1層の飛躍を担う施設となっており、5階にあるフューチャーセンター「A・B・A(アバ)」は国立大学法人では初の設置で、「出会い」「発想」「共創」による参加型オープンインベシヨンスペースであり、そこで繰広げられる地域創生へ向けられた自由闊達な対話の場として、憩い、食、DIY、伝統文化の要素も取り入れた空間を構築しています。

2016年には、生物資源産業学部の設置に伴い、その農場として、石井町の徳島県の農業大学校の移転後の土地(約9ha)を徳島県から提供していただきました。現在、創業・医療機器開発施設を設置し、豚を用いた研究が行われ

ています。この地域には、徳島県農林水産総合技術支援センターが隣接しており、アグリサイエンスゾーンと呼んでいます。鳴門市には、水圏教育研究センターがあります。主に海藻の養殖や、海藻を用いたアワビ等の養殖技術についての研究を行っており、学生のフィールド実習に使用されています。ここには、徳島県の水産研究課鳴門庁舎が隣接しており、マリンサイエンスゾーンと呼ばれています。2019年には、阿南工業と新野両高を統合した阿南光高校の新野キャンパスに、徳島大学が関与し、6次産業化を担う人材を育成する「とくしまイノベーションセンター」も設置されました。高校生の教育も行う新規の高次統事業となつています。

謝辞

創立70周年事業に対して、皆さまから多大なご支援をいただき、この紙面をお借りして、お礼を申し上げます。ありがとうございます。徳島大学は、今後も教育・研究基盤を強化して、地域から国際的な課題を解決する大学を目指して努力いたしますので、皆さまのご支援、ご協力をお願い申し上げます。



2013年 (平成25年)

- 藤井節郎記念医学科学センターを設置

2014年 (平成26年)

- 保健管理センターを改組し、保健管理・総合相談センターを設置
- 医学部栄養学科を改組し、医科学養学科を設置
- 中村修二氏(徳島大学工学部卒業、博士(工学)(徳島大学)がノーベル物理学賞受賞
- 田中啓二氏(徳島大学医学部栄養学科卒業)が文化功労者として顕彰

2015年 (平成27年)

- 大学院ヘルスバイオサイエンス研究部を大学院医歯薬学研究部に改組
- 大学院口腔科学教育部口腔保健学専攻(博士後期課程)を設置

2016年 (平成28年)

- 総合科学部3学科を総合科学部社会総合科学科に改組
- 工学部7学科を理工学部理工学科に改組
- 生物資源産業界部生物資源産業界学科を設置
- 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部を大学院総合科学研究部に改組
- 大学院ソシオテクノサイエンス研究部を大学院理工学研究部に改組
- 大学院生物資源産業界学研究部を設置
- 教養教育院の設置
- 疾患酵素学研究センター及び疾患プロテオゲノム研究センターを改組し、先端酵素学研究所を設置
- 教職教育センターを設置

2017年 (平成29年)

- 大学院総合科学研究部、大学院理工学研究部及び大学院生物資源産業界学研究部を改組し、大学院社会産業界理工学研究部を設置
- 創新教育センターを設置
- 技術支援部を設置

2018年 (平成30年)

- 徳島大学産業界を設置

2019年 (平成31年)

- ポストLEDフォトリソグラフィ研究所を設置
- 地域創生センターと大学開放実践センターを改組し、人と地域共創センターを設置
- 保健管理・総合相談センターと特別修学支援室を改組し、キャンパスライフ健康支援センターを設置
- 総合教育センターと創新教育センターを改組し、高等教育研究センターを設置

2002年 (平成14年)

- 留学生センターを設置
- 教育実践推進機構、研究連携推進機構を設置

2003年 (平成15年)

- 徳島県・徳島県教委・市長会・町村会との間で徳島地域連携協議会を設置
- 医学部附属病院と歯学部附属病院を統合し、医学部・歯学部附属病院とする
- 社会連携推進機構を設置

2004年 (平成16年)【国立大学法人化】

- 大学院ヘルスバイオサイエンス研究部、および医科学・口腔科学・栄養生命科学・薬科学の4教育部を設置

2006年 (平成18年)

- 徳島大学地域・国際交流プラザ(日亜会館)の竣工記念式典を挙行、「ガレリア新蔵」の開設
- 薬学部を6年制の薬学科および4年制の創製薬科学科に改組
- 大学院ソシオテクノサイエンス研究部および先端技術科学教育部を設置
- 大学院保健科学教育部の設置
- 助産学専攻科の設置

2007年 (平成19年)

- 歯学部口腔保健学科の設置
- 疾患酵素学研究センターの設置(分子酵素学研究センターの転換)

2008年 (平成20年)

- 大学院保健科学教育部博士後期課程を設置
- 疾患ゲノム研究センターを設置(ゲノム機能研究センターの転換)

2009年 (平成21年)

- 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部および総合科学教育部を設置

2010年 (平成22年)

- 徳島大学病院の設置(医学部・歯学部附属病院の転換)

2011年 (平成23年)

- 大学院口腔科学教育部修士課程を設置

2012年 (平成24年)

- 助産学専攻科を廃止し、保健科学教育部に博士前期課程助産学実践コースを設置
- 疾患プロテオゲノム研究センターの設置(疾患ゲノム研究センターの転換)

1969年 (昭和44年)

- 大学院栄養学研究科を設置

1970年 (昭和45年)

- 「徳大広報」を創刊

1975年 (昭和50年)

- 保健管理センターを設置
- 薬学部附属薬用植物園を設置

1976年 (昭和51年)

- 歯学部を設置

1979年 (昭和54年)

- 歯学部附属病院を設置

1983年 (昭和58年)

- 大学院歯学研究科を設置

1986年 (昭和61年)

- 総合科学部(総合科学科)を設置
- 教育学部附属の小学校・中学校・幼稚園・養護学校を鳴門教育大学に移管
- 大学開放実践センターを設置

1987年 (昭和62年)

- 医学部附属看護学校・診療放射線技師学校・臨床検査技師学校を改組し、徳島大学医療技術短期大学部を併設(2005年3月廃止)

1991年 (平成3年)

- 地域共同研究センター(現在の産学官連携プラザ)を設置

1992年 (平成4年)

- 埋蔵文化財調査室を開設

1993年 (平成5年)

- 併設工業短期大学部が廃止転換され、工学部に夜間主コースを設置

1994年 (平成6年)

- 大学院人間・自然環境研究科を設置

1995年 (平成7年)

- 北島町に国際交流会館を開館

1998年 (平成10年)

- ゲノム機能研究センターを設置

1999年 (平成11年)

- 全学共通教育センターを設置

2001年 (平成13年)

- 徳島大学などの出資により株式会社テクノネットワーク四国(四国TLO)を設立
- 徳島大学医療技術短期大学部を改組し、医学部保健学科を設置

1949年 (昭和24年)

- 旧制の徳島師範学校、徳島青年師範学校、徳島医科大学、徳島医学専門学校、徳島高等学校および徳島工業専門学校を包括した徳島大学の設置(学芸学部・医学部・工学部の3学部)
- 徳島医科大学附属病院を徳島大学医学部附属病院と改称

1951年 (昭和26年)

- 薬学部を設置(同年3月工学部薬学科を廃止)

1952年 (昭和27年)

- 附属図書館を常三島地区に設置、医学部図書分館を蔵本分館と改称

1954年 (昭和29年)

- 徳島大学工業短期大学部を併設(1996年3月廃止)

創立70周年特集 徳島大学の歴史

— 創立(1949年)から現在(2019年)まで —

1955年 (昭和30年)

- 大学院医学研究科を設置

1959年 (昭和34年)

- 常三島地区に学生会館を開館

1961年 (昭和36年)

- 医学部附属酵素研究施設(現在の先端酵素学研究所)を設置

1964年 (昭和39年)

- 大学院工学研究科を設置
- 医学部に栄養学科を設置

1965年 (昭和40年)

- 教養部を設置(1993年3月廃止)
- 大学院薬学研究科を設置

1966年 (昭和41年)

- 学芸学部を教育学部と改称(1990年3月廃止)
- 電子計算機センター(現在の情報センター)を開設

1967年 (昭和42年)

- 養護教諭養成所を附置(1979年3月廃止)



創立70周年記念



行事案内

徳島大学は、本年11月2日に創立70周年を迎えます。今後開催予定の記念行事をご紹介しますので、皆さまにはぜひご参加・ご高覧くださいようお願い申し上げます。70周年記念行事の詳細は、本学HPに随時掲載いたします。
https://www.tokushima-u.ac.jp/about/anniversary_70th/memorial_ceremony/



創立70周年記念美術展(開催中)

場所: ガレリア新蔵(日亜会館1階)

開館時間: 10:00~17:00 ※各展覧会の最終日は、16:00閉館となります。

■ 絵画表現研究室卒業生グループ展	2019年10月 5日~10月14日
■ 絵画表現研究室学生グループ展	2019年10月17日~10月27日
■ 徳島大学総合美術展	2019年11月 1日~11月24日



映像デザイン研究室展(2019年7月)

ホームカミングデー

日時: 2019年11月2日(土)

オープニングセレモニー・記念講演会

場所: 徳島大学長井記念ホール(蔵本キャンパス内)

10:30~ 受付

11:00 開会

11:30~ 記念講演会 徳島大学長 野地澄晴

テーマ: 徳島大学の明るい未来像

国立大学は、「全国都道府県に設置という基本原則を堅持」しながらも、「戦略的に大学間の資源配分、役割分担などを調整・決定する経営体の導入を検討」することになっている。徳島大学の未来像を提案する。

12:15 閉会

各同窓会イベント

場所: 徳島大学常三島・蔵本の各キャンパス

谷 但馬	高橋 重俊	田内 康之	妹尾 初恵	瀬尾 勲夫	白井 栄奈	澤田 典代	佐藤 隆	佐藤 英一	酒向 敏彦	桑原 幸子	金下 澄代	岡 一成	大江 智恵美	岩見 宏康	石川 榮作	飯田 恵子	油谷 増夫	相原 秀生		
慶明	重俊	里亥	康之	初恵	勲夫	栄奈	典代	隆	英一	敏彦	幸子	澄代	一成	智恵美	宏康	榮作	恵子	増夫	秀生	
吉田 翼	吉田 滋	横目 英作	山本 圭二	山田 良太郎	山路 澄生	毛利 久康	湊 亮詠	水口 裕之	松尾 敬志	廣瀬 京子	濱本 恒男	長谷川 裕治	西 富美子	仲村 敦夫	中村 祥隆	中橋 早苗	長尾 早苗	土岐 俊一	玉置 裕規	谷井 宏光

引き続き本学へのご支援を賜りますようお願い申し上げます。

卒業生をはじめ、多くの皆さまからご厚情をいただき、2019年6月末現在で2025人の方からご寄附をいただいております。ご寄附いただきました皆さまのご協力に厚く御礼申し上げますとともに、感謝の意を込め、ここに「芳名を掲載させていただきます」。

今号では、2019年4月~6月末までにご入金を確認させていただいた方で、公開を了承いただきました方を五十音順に掲載しております。なお、6月末時点で本学教職員である方につきましては、掲載を省略させていただきます。また、2019年7月以降にご入金を確認できた方につきましては、2020年1月冬号に掲載いたします。

寄附者のご紹介